



すやま

東京都議会議員【八王子選出】

須山たかし

1980年11月6日生まれ。桐朋高校、早稲田大学社会科学部卒。大隈塾・高野孟ゼミ1期生。特許事務所、連訪参議院議員秘書、府中市議会副議長等を経て、現職。

東京都議会 環境・建設委員会副委員長。東京都議会立憲民主党多様性PT座長。

令和6年度予算審査



東京都の令和6年度予算特別委員会が立ち上がり、一般会計8兆4,530億円の審議を行いました。須山都議は委員として、会派のしめくり総括質疑を行いました。

令和6年度予算でも少子化対策に力を入れるとのことですが、現行法では結婚が前提の少子化対策であり、結婚支援等もメニューにあるがそもそも、若い世代が結婚し、子どもを育てていこうと思える社会にする必要があります。それには雇用や経済対策が必要である。そもそも、行政が結婚や出産などを誘導することがおかしいといった問題意識から以下の質問を行いました。

- 少子化対策としての家族や東京都の結婚支援（結婚ソングの募集や結婚エピソードの漫画作成に5,000万円？）
- 将来への不安（賃上げ、雇用、非正規問題、男女間格差、育休）
- カスタマーハラスメント
- 三多摩格差と給食費無償化（半額補助のため、多摩地域では無償化に踏み出せない自治体が続出）
- 路上生活者と包摂のまちづくり
- 都庁プロジェクションマッピング
- 神宮外苑再開発
- 家賃補助制度

都議会HP↓からご覧いただけますので、ご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

<https://www.gikai.metro.tokyo.lg.jp/live/video/240325.html?seek=18844>



新たな三多摩格差では？～給食費無償化～

知事は公約で多摩格差ゼロを挙げてきましたが、残念ながら新たな三多摩格差が生まれてしまいました。

6年度予算で各区市町村が給食費を支援する場合、半額を負担するため、約239億円を計上しました。

しかし、半額助成では財政の潤っている自治体との差が生まれてしまうことは明白です。実際、23区は全自治体が無償化を実現する反面、三多摩地域では無償化に踏み切れない自治体が続出しています。

私たちはここに格差を生まないため、東京都として、全額負担をなるべく財政措置を強く求めました。



給食センター橘原の給食

八王子市では給食費無償化を掲げた新市長の下でも、給食費無償化に20億円という莫大な費用がかかる為、6年度の当初予算には計上されませんでした。

都庁プロジェクションマッピングは必要？



2月25日から都庁は毎日プロジェクションマッピングで照らされ始めました。

5年度は7億円。6年度は9.5億円の予算が計上されていますが、本当に適切なものでしょうか？

知事は議会や報道で批判的な声があがると、唐突に18億円の経済効果があると言い出しましたが、全額東京都の負担(我々の支払った税金!)で行う必要があるのか、更にはオリンピック談合で、都の入札資格停止処分である電通の子会社が受託することは適切であるのでしょうか？

皆さんはどう思いますか？

STOP!カスハラ(カスタマーハラスメント)

会派としてPTを立ち上げ、不当な要求などを行うカスタマーハラスメントから働く人を守るための条例を早急につくるべきだと提案をしてきました。

知事が施政方針で検討に着手すると述べる中、都として早期にカスハラ対策条例を提案すべきだと考えます。

同時に、条例制定後には都の対策の効果について継続的な確認をするとともに、業種ごとの対策マニュアルの作成支援など具体的な対策が必要だと考えます。

質問の中では地元八王子のスーパーが独自にインパクトのあるポスターで啓発を行っていることを取り上げました。



議事録の削除は民主主義の破壊

【予算特別委員会でとんでもないことが起きました】

第1回定例会での予算特別委員会。私達、東京都議会立憲民主党の関口健太郎都議が「知事の答弁拒否」に対して質問をしました。以前から私たちは知事に質問をしても局長が答弁を繰り返す姿勢を問題だと訴えて来ました。

【知事の答弁拒否は不穏当？】

予算特別委員会の最終日、知事の答弁拒否とは不穏当な発言であり、議事録から削除を求めるという動議が都民ファースト・自民党・公明党から提出されました。そもそもが不穏当とはどういうことでしょうか？辞書で調べると「不穏当、穏やかでないこと」と書かれていますが、知事の考えや思い、政治活動といった知事しか答えられないはずの質問にまで、答弁をしないというのはどういうことでしょうか？

【特定の議員への答弁拒否率は76%】

さらに、関口議員が明らかにした通り、令和6年東京都議会第一回定例会本会議における代表質問と一般質問では、28名が質問し、知事への質問は136問。そのうち知事がお答えになったのが、80問で知事の答弁拒否率は41%でした。

一方で質問をした28人中21人は知事の答弁率が100%であり、知事の答弁拒否があったのは7人。この7人は知事に対して厳しい質問をしたり、耳障りの悪い質問であった。その質問者だけで見ると、知事への質問74問中、知事が答弁に立ったのは18問。ここから算出すると知事の答弁拒否率は76%です。

◎全質問	28名	136問⇒80問答弁＝全議員に対しては41%が答弁拒否
◎答弁拒否のあった質問	7名	74問⇒18問答弁＝特定の議員だけみると76%が答弁拒否



除斥の動議が出され、退席する関口都議

【議事録の削除は歴史の改ざん】

このことについて関口議員は、指摘をし、意見の異なるものへの排除だと、知事の見解を求めましたが、このことを「不穏当だ」と議会の側から議事録の削除を求めるという動議が出されたのです。

私はこの動議に「歴史の改ざんであり、民主主義の破壊である」と反対の意見を述べましたが、動議は賛成多数で可決されてしまいました。議会内の数の力で少数の意見の削除を迫るとは言語道断。都議会の良識が今、問われています。皆様のご意見もお聞かせください。

東京都議会議員 須山たかし事務所
〒192-0046
東京都八王子市明神町3-10-6
イサムビル303
✉ suyamaoffice1980@gmail.com

須山たかしで検索



都政へのご意見・ご要望を
お待ちしております。
右記QRコードからLINEで
お寄せください▶▶

